日本周辺国際魚類資源調査委託事業

久野正博・柴原浅行・久保典敬・田岡明将・井上勇人・大野恭我・平工智一

目的

太平洋を広く回遊するカツオ・マグロ類について，資源量評価やその資源動向の予測，我が国周辺への来遊量の予測等を行うために必要な科学的情報を収集，整理することを目的に，国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所や各県水産試験場と連携して調査を行った。この中で，本県は県内所属船によるカツオ・マグロ類の漁獲状況や漁獲物の生物的特性に関する情報収集を行った。

方法

1 沿岸域における漁獲実態調査

県内におけるカツオ･マグロ類（クロマグロ，キハダ，メバチ，ビンナガ）の主要水揚港である和具，浜島，宿田曽，紀伊長島，尾鷲，奈屋浦の各港において，漁業種類別の水揚状況を調査した。また，前年度に引き続き，クロマグロ加入状況の早期把握を目的とした曳縄標本船調査（GPS ロガーを用いた漁獲実態調査）を実施した。

2 沖合，遠洋漁場における漁獲実態調査

沖合，遠洋漁場における中型，大型竿釣船の漁獲動向については，三重県漁労通信連合会および近海漁労通信会所属の標本船から「無線漁況連絡聴取簿（QRY 情報）」の提供を受け，カツオ・ビンナガ漁船の月別，旬別稼働隻数および漁獲量を緯度・経度毎に整理し，漁場の推移や漁況と海況との関連等について検討を行った。

結果および考察

収集した QRY 情報をもとに，本県所属船のカツオ・ビンナガ竿釣漁場の変遷を「令和 3 年における三重県中型・大型竿釣船のカツオ・ビンナガ漁況総括」としてとりまとめ，漁場探査の参考資料として関係漁業者に提供した。また，カツオ・マグロ類の漁獲動向を水産資源研究所に提供した。これらのデータは，太平洋におけるカツオ・マグロ類の資源量評価およびそれに基づく資源管理方策を検討する国際会議において活用されたほか，日本周辺海域への来遊量予測の科学的根拠としても利用された。資源評価や来遊量予測に関する結果の詳細については，関連報文で報告されることから，ここでは本県所属船の 2021 年（令和 3 年）漁期におけるカツオ・マグロ類の漁況概要をとりまとめた。

1 カツオ漁況

1) 沿岸曳縄船

2021 年における三重県主要 4 港（和具・浜島・長島・尾鷲）の曳縄船によるカツオ水揚量 184 トンで，前年（67 トン）および過去 10 年平均値（69 トン）の約 2.7 倍の好漁となり，過去 10 年では最も多くなった（図 1）。

曳縄船によるカツオの漁獲は 1～3 月に集中し，4 月以降は過去 10 年平均を下回る月が多かった。主要 4 港の水揚量と水揚隻数から求めた年間の平均 CPUE は，50kg/隻と前年（28 kg /隻）を大きく上回った。水揚げが多かった 2～3 月の魚体は銘柄中（2～3kg）と銘柄大（2.5～4 kg）が主体であった。

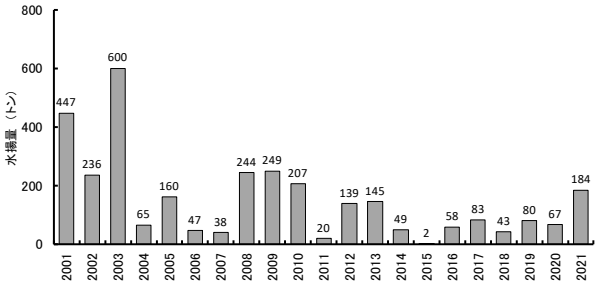

図 1. 沿岸曳縄船によるカツオ水揚量（主要 4 港）

2) 小型竿釣船（19 トン以下）

2021 年における三重県主要 4 港（和具・浜島・長島・尾鷲）の小型竿釣船によるカツオ水揚量は 920 トンで，前年（456 トン）の約 2 倍，過去 10 年平均値（426 トン）の約 2.1 倍の水揚量となった（図 2）。近年では 2000 年に次ぐ好漁となり，過去 20 年で最高の水揚量であった。主要 4 港の水揚量と水揚隻数から求めた年間の平均 CPUE は 1,331kg/隻で過去 10 年平均値（982 kg /隻）を上回った。

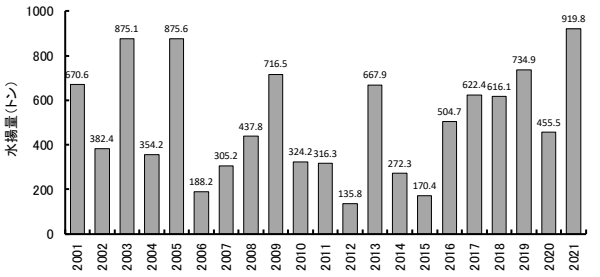

図 2. 小型竿釣船によるカツオ水揚量（主要 4 港）

水揚げの多かった 6, 7 月の魚体は, 銘柄大 (2.5～4 kg) を主体に，銘柄中（2～3 kg）も多く水揚げされた。尾叉長は 50～55cm が主体であった（図 3)。水揚げの多かった 6, 7 月の漁場は, 熊野灘沖の浮魚礁海域に集中していた。

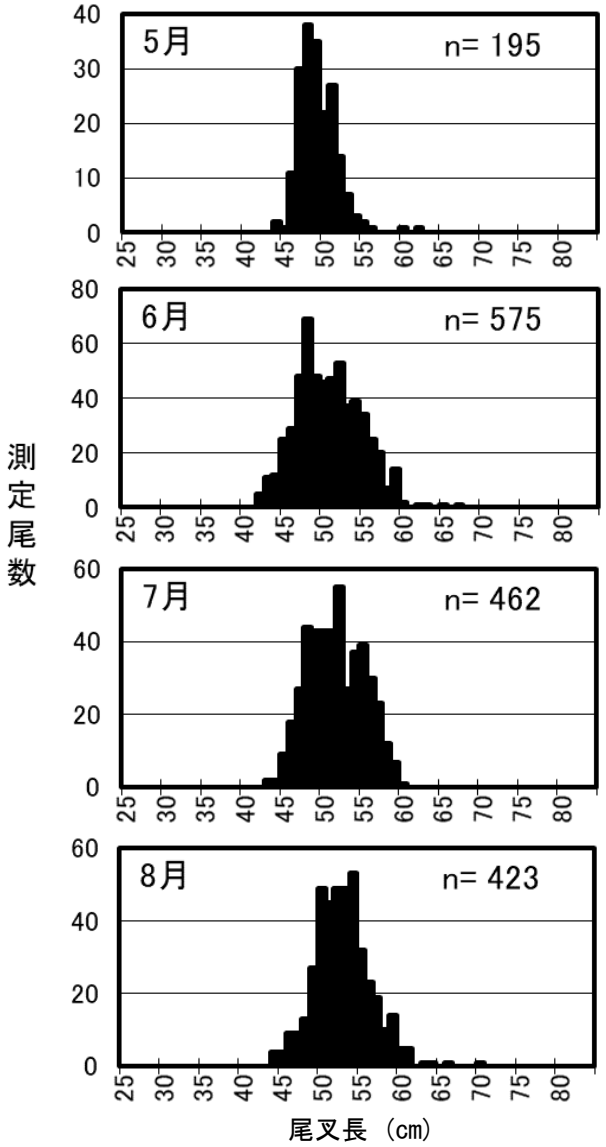

図 3. 令和 3 年のカツオ好漁時の尾叉長組成

3) 中型竿釣船

QRY 情報に基づく 2021 年の三重県中型竿釣船によるカツオ漁獲量は 6,624 トンで, 前年(3,165 トン)の 209%, 過去 10 年平均値（5,846 トン）の 113%で，低調であった前年を大きく上回り, 過去 10 年の平均並の漁獲量となった（図 4)。

操業は, 2 月に硫黄島～南鳥島の海域 (N23～26° E141～157°）で始まり，3 月には N25° 以北の広範囲の海域で操業した。4 月に入り，伊豆諸島周辺と紀伊半島沖の海域（N29～34° E135～140°）を主体に操業したが，5 月には房総半島沖～東北沖でビンナガ主体の操業となった。6 月には東北沖（N33～37° E142～150°）においてカツオとビンナガ混じりで操業した。7 月以降はカツオ主体の操業となり，東北沖（N35～42° E142～155°)で 11 月上旬まで操業した。

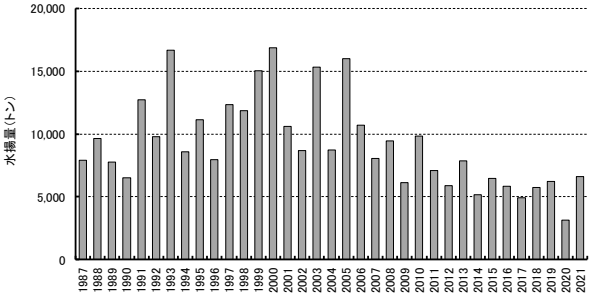

図 4. 三重県中型竿釣船によるカツオ漁獲量

2 クロマグロ漁況

1) 漁業種類別水揚げ状況

三重県主要 6 港における 2021 年のクロマグロ水揚量（全漁業種）は 9.9 トンで，前年（15.5 トン）の 64%, 過去 10 年平均（22.4 トン）の 44%であった。主な漁業種類は，定置網，曳縄，まき網であった。

2) クロマグロ養殖用種苗（ヨコワ）の採捕状況

熊野灘沿岸域における 2021 年の養殖種苗用ヨコワ漁（曳縄）は，前年より 2 週間早い 7 月 5 日から始まり，8 月 17 日に終漁した。標本漁協所属船によるヨコワの活け込数量は約 7,500 尾で，前年の 210%であった。採捕尾数と有漁隻数から求めた CPUE は 9.0 尾/隻で，前年（6.7 尾/隻）および前々年（7.5 尾/隻）を上回り，4 年連続の低下から脱した（図 5)。

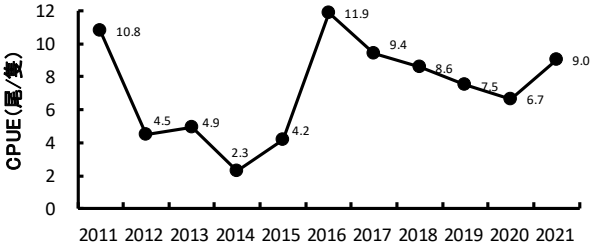

図 5. 標本漁協所属船によるクロマグロ養殖用種苗（ヨコワ）CPUE の経年変化

関連報文

令和 3 年における三重県中型・大型竿釣り船のカツオ・ビンナガ漁況総括，三重県水産研究所.